

# 高ヶ坂・成瀬地区

“ 歴史と地形から伝わる地名 ”



高ヶ坂の地名は、原町田に向かう急坂があることから「高い坂のある村」としてそう呼ばれていました。「こがさか」の「こが」は崖崩れの意味があるともいわれています。成瀬は、雨で増水した川の音から「鳴る瀬」と呼び、「成瀬」の文字に変わったといわれています。成瀬の「なる」は一般に山間の平地を指す地名に多いようです。奈良谷戸の「なら」も同じような地形から来る地名と考えられます。

## C 鞍掛

くらかけ

急傾斜地で山崩れの起こりやすい土地に「クラ」や「カケ」の言葉をつける地名は全国に多くみられています。鎌倉攻めの新田義貞が分倍河原の合戦の後、鎌倉に向けて進軍中にこの地で野営、馬の鞍を松の木に掛けて休んだことからつけられた地名との言い伝えもあります。鎌倉時代の御家人、畠山重忠が鞍を掛けたとの説もあります。



鞍掛の松公園にある石碑

## A 三塚

さづか

高ヶ坂・原町田・金森の三村の境界点を示す「境塚」があったことから「さづか」と呼ばれるようになりました。

## B 牢場 (高ヶ坂石器時代遺跡)

ろうば

「牢場」の地名は、谷あいの地形で馬を追い込んだ場所を指す「籠場」という意味と考えられます。熊野神社奥の窪地で、中世の小山田氏支配の時代、馬の牧場の一画だったと考えられます。この場所から大正時代に縄文時代の敷石住居跡が発掘され、「高ヶ坂石器時代遺跡」として市内では唯一の国指定史跡となりました。現在、遺跡を覆い屋で保護し見学できるように整備されています。



写真奥が牢場遺構の覆屋

### かしの木山自然公園

園内では、シラカシやクヌギ、コナラなどの雑木林をはじめ、野鳥や昆虫を観察できる自然あふれる散策を楽しめます。玉川学園・南大谷から鞍掛にかけて古道の跡ともいわれる尾根道が通っています。



園内の自然観察館「森の家」

町田市西成瀬3-9 042-724-1660

# 木曽地区

“ 大山道の宿場町 ”



木曽の地名は、源平合戦の主役だった木曽義仲の子、義高に由来すると伝えられています。また、昔からの木曽の住民は境川近くに住んでいたことから、崖や傾斜地を表す「きし」が転じたとも考えられています。江戸時代には、小野路に並ぶ大山街道の宿場町として栄え、木曽には上宿・中宿・下宿が連なりました。一里塚や上宿の名称がその名残を今に伝えています。

## C 上宿

かみじゅく

宿場は、五街道や脇往環で人馬の継立や宿泊機能を果たす集落でした。木曽村には上宿・中宿・下宿があり、上宿は根岸村に接する一番北側に位置していました。『新編武蔵風土記稿』には、中宿は本村（木曽村の小名）にあったと記されています。

## A 木曽の一里塚

江戸時代、旅行者の目印として大山道に面した木曽の横町に築られました。当時は街道の両側に塚がありましたが、現在は西側のみが残っています。塚の上には、武蔵御嶽山の大口真神の小祠が建てられています。昭和44（1969）年、町田市指定文化財に指定。一里塚は小野路にもあります。



木曽の一里塚

## D 滝の沢

たきのさわ

町田街道と高低差が10mほどあるすり鉢状の谷戸で、崖下から湧き出た水が恩田川の支流の水源になっています。地名からは、かつては雨が降ると、滝のように水量が多かったと想像できます。



滝の沢源流公園にある水源

平成23（2011）年に滝の沢源流公園が整備されました。

## B 箭幹八幡宮

やがらはちまんぐう

源義家が奥州征伐の帰路、ここで病にかかり、八幡宮のおかげで平癒したので、屋根に矢を挿したと伝えられています。



箭幹八幡宮

います。寿永2（1183）年、木曽義仲が源頼朝と和解のため、その子・義高を鎌倉に派遣したところ鎌倉に入れず、この地に留って八幡宮を再建したと伝えられています。